

術前に診断し腹腔鏡下手術を施行した 椎茸による食餌性腸閉塞の1例

よこ 横 山 靖 彦 さ とう 佐 藤 たかし 崇 やま 山 本 もと 佳 よし 生
なか 中 島 裕 一 たちばな 橘 まろみ 球 うち 内 田 だ まさ 正 あき 昭

キーワード：椎茸，腹腔鏡，食餌性腸閉塞

要 旨

詳細な問診と特徴的な CT 所見により術前に診断し，腹腔鏡補助下に手術治療を行った椎茸による食餌性腸閉塞の1例を経験したので報告する。症例は52歳，女性。前日からの心窩部痛，嘔気，嘔吐を主訴に受診。腹部単純 CT で，胃から回腸末端に至る腸管の拡張とその内腔に気泡を伴った異物塊を散在性に認めた。食餌性腸閉塞を疑い，詳細な問診を行い，椎茸による腸閉塞と判断した。保存的治療では改善せず，腹腔鏡手術を施行した。腹腔内は中等量の淡血性腹水，小腸の拡張と浮腫，漿膜面の発赤，5ヶ所の異物塊を認めた。鉗子操作による異物塊の結腸側への誘導は困難であったため，小開腹の後，最肛門側の異物塊を認める回腸を切開して用手的に5個の異物塊を摘出した。術前診断通り，椎茸であった。椎茸による食餌性腸閉塞の報告は散見されるが，本症例では詳細な問診と特徴的な CT 所見により術前に診断できた稀な例であると考えられる。

はじめに

食餌性腸閉塞は比較的稀な疾患である。その診断には腸閉塞の原因となる食事摂取内容や摂取状況についての詳細な問診と適切な画像診断が必要となる。しかし，術前に詳細な問診ができていない症例も多く，一般的には術前診断が困難であるとされている¹⁾。今回我々は，特徴的 CT 所見と

詳細な問診によって，術前に椎茸による腸閉塞であることを診断し，腹腔鏡下に手術を行った1例を経験した。若干の文献的考察を含め報告する。

症 例

患者：52歳，女性。

主訴：心窩部痛，嘔気，嘔吐。

既往歴：虫垂切除術後，腸閉塞。

家族歴：特記すべきことなし。

現病歴：前日の夕方から心窩部痛，嘔気，嘔吐が持続するため，当院救急外来へ搬送となった。

Yasuhiko YOKOYAMA et al.

松江生協病院外科

連絡先：〒690-8522 松江市西津田8丁目8-8

松江生協病院外科